

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名(ユニット名)	グループホームなごみ②ユニット		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	令和7年3月29日	評価結果市町村受理日	令和7年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	令和7年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念“誰もが利用したいと思えるグループホーム、地域の中で生き生きと、共に笑顔で暮らす”を大切にご利用者が安心して過ごして頂けるグループホームを目指しています。ご利用者様に寄り添い、日々の暮らしが居心地良く、笑顔で楽しみのある日常生活を送って頂けるような支援を心掛けています。ご利用者様の状態・体調変化に早期発見し、ご家族様、主治医と連携を取り早期対応に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在も外出が規制されている中で、毎年恒例の合同文化祭を開催し、参加した利用者や家族からの笑顔が見れたことが、職員全員の励みとなっている。また、DVDに記録して広く知ってもらうことにも取り組んでいる。認知症の研修も2回行い、地域住民の多数の参加があり、地域に認知症の理解の輪を広げている。同法人のグループホームの協力で、職員が販売員として移動販売を行っている。金券を発行して買い物気分を味わってもらい、本人にはお釣りの計算をしてもらうなど、認知症進行予防の支援にもつなげている。利用者と共に笑顔で過ごせるグループホームを目指し、日々研鑽している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、又ホールに提示し、スタッフ全員が常に理念を意識してケアを実践できる様努めている。	法人の理念と、グループホーム独自の理念を掲げ、できる事でもより向上心を持って高みを目指す。また、年間目標達成に向け、職員全員で理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症防止の為、地域との交流は自粛している部分もあるが、訪問理美容の利用やかかりつけ医への定期健診は行っており、又、中学生の職場体験の受け入れも行っている。小学校のお便りも定期的に頂いている。	中学生の職場体験の受け入れや、年1回の地域の掃除活動に参加する等地域と交流している。小学校の校長が推進会議に参加しており、児童からのお便りを頂く等、グループホームの活動の理解に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェ等を通して、日々の施設での取り組みを報告している。文化祭では、地域の方にも参加して頂き、認知症についての勉強会を行い理解を深めて頂けるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所での活動報告と地域の方が認知症介護について知識等、理解を深めて頂けるように様々な意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	市役所、包括支援センター、地域の区長や民生委員等が参加して、地域に根差したグループホームでの活動や認知症理解のための知識の共有を行い、サービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や電話や訪問でのやり取りで、活動報告や相談し協力関係を築ける様努めている。	直接訪問して、後見人の相談や、介護保険の法改正の不明な点を相談するなど、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者が外に出たい時には職員と一緒に外出している。事業所内で年2回以上研修を実施し、事例での研修等、身体拘束に対する知識、理解を深めケアに取り組んでいる。	玄関は、利用者の安全のため施錠しているが、本人の希望があれば、職員と一緒に外出している。身体拘束の研修は年2回行い、ヒアリングやスピーチロック、不適切なケアなど、職員が講師となり研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修を実施し高齢者虐待について、職員間での意見交換、話し合いを行い虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で年2回以上研修を実施し、権利擁護についての知識、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書、重要事項の内容について十分な説明を行い理解、納得を頂いている。又、変更事項がある時も十分な説明を行い、必ず同意書を交わしご理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関りでご利用者の要望を聞き、ご家族の要望は電話や来居時に聞かせて頂き、又、毎月ご本人様の様子や医療等について報告しケアに繋げ対応できるよう努めている。	月2回の居室と希望に応じた玄関先での面会で、要望等を聞き取る体制ができている。遠方で来られない家族に対しては、電話や手紙、写真を使って利用者の日常の生活をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、業務中や面接時、会議等で聞く機会を設けており、業務改善や目標の取り組みに反映出来るようにしている。	職員と月1回の自己評価、面談を行い、職員の意見を運営に反映している。「なごみ庵」で開催された合同文化祭をDVDに収録したり、年2回発行のなごみ便りを広く地域に周知してもらう取組を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査には面談を行い、職員の意見や目標を聞き取り、困ったことがあれば相談出来、向上心を持って働ける職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会を設け、又、事業所内の研修は各担当者を決め研修を行っている。毎月、自己評価を行い面談し、ケアを見直す機会を設け、職員一人ひとりのケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、グループホーム4事業所代表で合同研修を行い、取り組みや支援について意見交換を行い、悩みやストレス軽減をし自事業所の取り組みに活かすことで質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のこれまでの生活歴を把握した上で、ご要望に耳を傾けながら安心して過ごして頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や思いを聞き、不安な部分には寄り添い、安心してサービスを利用して頂ける様、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に合わせ、その都度何が必要か、ご家族と相談した上で、サービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴や会話から得意な事や好きな事を探り、生活で役割をもって頂きながら、他者や職員と共に生活出来る関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関わりを大切にし、面会して頂いたり、電話でお話しをして頂いたり、また状態報告をご家族に定期的に送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブでの外出は、ご自分の思い出のある場所に出かけたり、馴染みの方と電話で自由に連絡を取って頂いたり面会をして頂いている。	法人の方針で外出が難しい状況下でも、家族の許可を得て、近隣の人との面会など、出来る限りのことを行っている。散歩やドライブは日常的に行っていて、馴染みの場所へ出かけることは、気分転換になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や思いを把握し、個人的に希望をお聞きし、レクリエーション等を通して、ご利用者同士で会話や関わりを持てる場面作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた後も、面会や電話で情報交換等をして、ご本人とご家族が安心してサービスが受けられるよう相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言動や言葉から、思いや希望を傾聴し、日頃の支援に活かしている。また困難な場合は、ご家族からも情報を得て支援している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意向の把握が難しい人に関しては、家族からの聞き取りを行っているが、最近は、思いや希望の主張ができる利用者が多くなってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話からご本人に聞いたり、面会時にご家族から聞き取り情報を得て、これまでの暮らしを把握し、生活環境を整え、安心してその人らしい生活ができる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	眠りセンサー、一日の流れ、気付きの記録や申し送り等でご本人の状態を把握できるよう職員間で情報共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に少しでも変化があれば記録し口頭でも報告している。ケース会議で検討課題を話し合い、またご家族の要望も取り入れ現状に応じた介護計画を見直し作成している。	ケース会議は月1回行っていて、主治医や家族にも聞き取りを行い、計画書に反映している。変化のあった利用者は、その都度カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個別に記録し気付いたことは気付きノートに記録している。申し送りでも伝達し職員間で共有している。その情報をもとに実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態に応じて日々のケアや過ごし方の支援を個々の情報をもとに取り組み内容を話し合い、ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生お職場体験の受け入れ、また文化祭を開催し地域の方やご家族にご来場頂き、日々の成果を見て頂き制作過程をビデオに収めより明確にし地域交流に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前より通院されているかかりつけ医への受診、往診で変わらない医療を受けられ、急変時には協力医療機関で対応している。受診、往診時の情報は職員間ご家族で共有している。	定期受診は、以前から利用しているかかりつけ医のところに職員が送迎し、家族に引き継いでいる。情報は、家族と職員で共有している。急変時には、協力医療機関の医師が24時間体制で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の診療所看護師と連携をとり、ご利用者の状態が変化した時等、情報を伝え相談しながら健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはご利用者の日常の様子や食事状態などを病院関係者に情報提供し、入院中は状態や経過についてご家族や病院関係者に様子を伺い早期退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際は、早期に状態を家族や医師と相談を行い身体的機能状態に合わせて事業所で可能なケアを説明し方針を共有し支援している。	入所時、重度化や終末期について説明を行い、身体状況の変化に伴い、家族、主治医と相談しながら適切にケアを受けられるように支援している。グループホームでの生活が難しくなった時には、同法人の特別養護老人ホームへの入所も視野に入れて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修やオンライン研修に参加し事故発生時や状態の急変に対しての知識や対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や地震時の対応、避難経路の確認、消火器の使用方法についての研修を行っている。緊急時の連絡体制で応援要請し早期対応に取り組んでいる。災害対策物品も備蓄している。	火災訓練は年2回、避難訓練は年1回利用者全員参加して行っている。夜間想定訓練も行い、BCP(事業継続計画)に基づいた研修も行っている。	災害時の対応には、地域との連携の大切さを広く知ってもらうことが必要と考えられる。推進会議において地域との協力体制の確立に期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、ご本人の能力に合わせた対応等心掛けています。	毎月の自己評価と年2回の接遇チェックシートを行い面接し、プライバシーに配慮した取組を行っている。尊厳をもって関わる事の大切さや、スピーチロックに関しても声掛けの大切さに配慮した取組を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や態度からご本人の要望や希望を汲み取れるように努力し、選択できる場面作りに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を優先し、自分のペースを保ちながら生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや状態に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日等、旬の物や意向に合わせた食事を提供し、又、一緒におやつ作りを楽しんで頂く等している。調理や盛り付け、食後の後片付けや食器洗い等、日課として行って頂ける様支援している。	週1回おやつ作りをしている。節分には豆まきをして、皆で巻きずしを丸かじりしたり、誕生日には本人の好きな物を提供している。食事の時間には、それぞれに役割を持ってもらい、食の楽しみを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の「一日の流れ」を記載するシートに水分量や摂取量を記入し、スタッフ全員で把握している。摂取量の少ない方には、好みの物での水分補給や栄養補助剤を提供し、嚥下の悪い方にはトロミ剤や刻み食等で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後、就寝前に個々の能力に応じた口腔ケアを支援している。意思疎通の難しい方には適宜に口腔ケアを行っている。入れ歯の方には、入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を個々に記録し、職員間で情報共有し、適切なタイミングでの声かけやご利用者のサインを見逃さないように努めている。出来る事は見守り、ご自身でして頂けるよう自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握して、さりげない声掛けを行い、トイレ誘導を行っている。トイレは居室のトイレを利用し、プライバシーに配慮している。排泄の自立に向け、脱リハビリパンツを目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を個々に記録し、状態に合わせて下剤や整腸剤を調整している。食事以外でも水分摂取して頂けるよう好みの物やゼリー等を提供し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者個々の体調や心理状態、希望に合わせて入浴して頂いている。入浴日以外は清拭を行い、清潔を保つように努めている。	入浴は、隔日で行っている。時間は午前、午後を問わず、利用者の希望に沿って入浴している。冬至の柚子風呂や、気分に合わせて入浴剤を入れ、ゆっくり入浴を楽しめる取組を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や睡眠状況に配慮し、個々のペースに合わせて休んで頂くようにしている。夜間、寝付けない時や不眠の時は、安心して頂ける様お声掛けし、ホールにてお茶等を飲んで過ごして頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院日誌や服薬内容を薬管理表にて把握し服薬支援を行っている。変更があった場合は常時、職員間にて申し送りをして周知を図っている。又、個々の状態把握に努め、全職員に情報伝達するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事等、楽しみながら役割を持って頂ける事を目標として支援している。中庭での外気浴や屋外への散歩で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや近隣への散歩や中庭に出るの日光浴、春には裏庭の桜の花見を楽しんで頂いたり、又、隣接する施設での文化祭の見学等している。グループホーム内で買い物体験を楽しめる取り組みも行っている。	四季を通して生活していた場所へのドライブや、個人に合わせた散歩を定期的に行っている。中庭では、外気浴を楽しみながら朝食やおやつを食べて外出気分を味わってもらっている。また、プランターに植えられた花の水やりをするなど、癒しの時間を過ごしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されることで安心されるご利用者には、ご家族の許可を得て所持して頂いている。グループホームが開催しているお屋さんで疑似紙幣を使用し、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話でお話しされたり、年賀状や暑中見舞いは、ご本人の直筆で毎年、ご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と一緒に作った季節の壁飾りを掲示し、遮光や換気を行い、ソファ席や畳みの間でくつろいで過ごして頂けるように工夫している。	中庭からの光が掃き出し窓を通し、暖かい日差しとなり差し込んでいる。落ち着いて過ごせるリビングでは、季節に合わせて制作した飾り物が展示されている。リハビリ体操を毎日全員行っている。皆がそれぞれ好きなことが出来て、くつろげる空間となるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みの間やソファや椅子等を数か所に置き、ご利用者が好きな場所でくつろいで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れたものやテレビや仏壇等を持ち込んで頂き、ご家族からのプレゼントや写真、ご本人の好きなもの、思い出の品等を置いて頂いている。	室内には、使い慣れた家具や仏壇を置き、家族の写真が飾られていて、落ち着いて過ごせるよう工夫されている。洗面台とトイレが完備されていて、プライバシーに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室は手すりを設置し、段差をなくし、ご利用者個々の状態に合わせた環境設備を行い、安全に生活して頂ける様努めている。		